

松本から、四季折々の山々へ

話題提供 **藤森 秀彦**さん (信濃毎日新聞社編集委員)

日 時 **1 月 17 日(土)** 午後 1 時 30 分～3 時 30 分(予定)

会 場 **あがたの森文化会館 講堂・第一会議室** 参加費 200 円

※ 電話での事前申し込みが必要です (高校生以下は無料)

松本駅の東西通路に立つと、はるか北方まで北アルプスの峰々を眺めることができます。駅前を歩けば、年間を通じてザックを背負った登山者を見かけます。日々の暮らしの中でも、松本が岳都であることを実感できます。冬本番となれば、冷え込んだ朝に見上げる白銀の常念岳に気持ちが高まります。

26 歳のときに信濃毎日新聞社に転職し、川崎市から引っ越しました。学生時代に山に親しんだことから、いずれは松本で働いてみたいと思いました。長野本社から大町支局、白馬支局、木曽支局、飯田支局と転勤を重ねましたが、松本勤務の機会には恵まれませんでした。入社から 30 年余を経て、還暦が間近になったときに松本本社に異動となりました。ここを拠点にデジタル版の連載「山と人と信州と」を担当することになったのです。

さらに、25 年 4 月からは信毎と朝日新聞社の連携が始まり、「山と人と信州と」の記事が朝日新聞夕刊に掲載されるようになりました。この際に求められたのが、四季折々の風景を捉えた写真と、そこでの物語を盛り込んだ記事だったのです。この取材は信州の山々を自分なりに見つめ直す機会になりました。みなさんと一緒にその歩みを振り返りたいと思います。

藤森秀彦(ふじもり・ひでひこ)さんは 1963 年、諏訪市生まれ。89 年に信濃毎日新聞社入社、2021 年からデジタル版の「山と人と信州と」担当。97 年、長野県山岳協会隊に同行して中国チベット自治区のキズ峰(6079m)登頂。2000 年 11 月～01 年 3 月、第 42 次南極観測隊に参加。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎ 35-6226 FAX 33-9986